

教育行政執行方針

平成31年第3回栗山町議会定例会で、南條宏教育長が教育行政執行方針を示しました。



今日、急速な人口減少、少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展など、社会情勢が大きく変化する中で、町民一人ひとりが主体的に社会に関わり、活力ある地域社会をつくり出していくため、ふるさとを誇りに思い、地域の発展を支える人材の育成が求められております。

学校教育につきましても、子どもたちが新しい時代を生き抜くために必要な資質・能力を確実に育むとともに、栗山の魅力を感じ、関わりを深め、愛着や誇りを持ち、未来に向かって新たな価値を生み出すことができる教育を推進することが重要であります。そのため、各学校においては、変化

成するとともに、地域とともにある学校づくりを推進してまいります。

社会教育につきましても、町民一人ひとりが生涯の学習活動に参画し、豊かな感性や郷土を愛する心を育むとともに、その成果を活かすことができる、心豊かで活力に満ちあふれたまちづくりを進めることが重要であります。そのため、町民の主体的な生涯学習活動を支援するとともに、芸術文化活動の促進や文化遺産の保存・活用を図るほか、ライフステージに応じたスポーツやレクリエーション活動を推進してまいります。

を活用した体験学習や自然環境保全に向けた住民活動などを通して、栗山の人人々の将来を担う人づくりを推進してまいります。

北海道介護福祉学校につきましては、高校生世代の減少や介護に対する誤ったイメージ、さらには介護福祉士の待遇改善の遅れなどから、学生数の減少が進んでいる状況にあることから、介護福祉学校の魅力づくりや学生確保に向けた取組を推進してまいります。本町の教育推進において、教育委員会が行うすべての活動を通じて「ふるさと教育」を実践し、新年度は、「学びの環境を支え、生活や学習の質を高める栗

山の教育をテーマに掲げ、「生涯を通じて学び続け、主体的に判断して変化する社会を生きる人」、「寛容さ」と思いやりの心をもって、多様な人々と絆を結び、共に支え合う人」、「世界に目を向け、新たな価値を創り、まちの魅力を高める人」の育成を目指し、教育行政を執行する考えであります。以下、具体的な推進方策に関わり、学校教育と社会教育、自然体験教育、北海道介護福祉学校の大きく4分野に分けて、15の重点方針を申し上げます。

第1分野

新しい時代を生きる主体的な力を育成する学校教育

成長と発達の中にある小・中学校期において、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、学びの質を高め、豊かな情操や道徳心、自己肯定感などを育むため、子どもたちが学びがいを感ずる、教師が教えがいを実感

できる環境が求められております。そのため、特に重視することを5点申し上げます。

1 連続性のある教育課程の編成

平成32年度は小学校、平成33年度は中学校で完全実施となる新学習指導要領へのスムーズな移行を継続してまいります。

特に、外国語教育につきましても、外国語指導助手を引き続き配置するとともに、中学校でのイングリッシュルームの開設や、小学校への外国語専科教員の継続配置を北海道教育委員会へ要望し、わかりやすく楽しい学習環境づくりに取り組んでまいります。

また、論理的に考える力を身につけることを目的とした、プログラミング教育の円滑な実施に向け、教職員研修を進めてまいります。

さらに、小学校間的小・小連携、中学校を含めた小・中連携を深め、教科に

おける継続的な学習を実施し、学力定着へ向けた教育課程の充実に向けてまいります。

2 社会で生きるための確かな学力の育成

栗山の子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を身に付けるために、教職員の各種研修に努め、資質・能力の向上を図るとともに、地域の教育資源、教育人材と連携し、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進めてまいります。

学習環境の面では、学習活動をサポートする特別支援教育支援員を継続配置し、子どもたち一人ひとりに合った学習環境の提供を行うとともに、分かりやすい授業に向けて、学校のICT環境の充実を図ってまいります。

また、栗山町の人材・地域資源から学ぶ「ふるさと教育」を継続実施し、さまざまな体験の中から栗山をより深く学ぶ活動を推進す



町内5小中高校によるふるさとキャリア教育体験発表会

るほか、栗山独自のキャリア教育を推進し、栗山の未来を担う人材の育成を図ってまいります。「コミュニケーション・スキル」につきましては、地域学校協働活動交付金を新設し、地域の特性を活かした活動をさらに促進することで、地域とともにある学校づくりを進めてまいります。

3 豊かな心と健やかでたくましいからだの成長を育む教育の推進

人を思いやる心や感動す

る心などの豊かな心を育むことができるよう、「特別の教科 道徳」の充実に努めるとともに、体験的な学習や、学校図書室や図書館司書を活用した読書活動を推進し、豊かな感性や創造性を育ててまいります。

また、「早寝・早起き・朝ごはん運動」など望ましい生活習慣の定着を進め、学校における体育の充実や部活動、少年団活動などを通して体力向上や運動の習慣化を推進してまいります。

本年度より、調理業務が民間委託となる学校給食セ

ンターにつきましては、施設や設備を計画的に改修しながら、引き続き安全・安心な給食の提供に努めるとともに、年1回、栗山町産食材のみを使った給食を提供してまいります。

4 子どもたちの教育を支える環境整備

教員が子どもと向き合う時間の確保に向け、「学校における働き方改革を推進するためのアクションプラン」に基づき、業務の改善を進めてまいります。

また、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境を整えるため、学校施設の計画的な修繕を進めるとともに、通学路の安全確保に努めてまいります。

さらに、保護者の負担軽減策として、就学援助制度に基づく支援や、スキー授業の実施に伴う支援を継続するとともに、子どもたちのスポーツ活動や文化活動など、さまざまな分野での活躍を支援するため、引き続き子ども夢づくり基金を活用してまいります。

また、芸術文化の鑑賞機会や活動機会の充実を図るため、文化連盟などと連携した総合文化祭の開催を継続するとともに、文化振興基金を活用した新たな支援制度により、町民の自主的な文化活動や芸術家の活動、伝統文化の継承などを支援してまいります。

4 文化財の保存・活用及び文化振興の充実

本町にある貴重な文化財を保護・継承するため、新たな支援制度を創設するとともに、文化財保護委員の協力をいただきながら新たな文化財の発掘に努めてまいります。

また、芸術文化の鑑賞機会や活動機会の充実を図るため、文化連盟などと連携した総合文化祭の開催を継続するとともに、文化振興基金を活用した新たな支援制度により、町民の自主的な文化活動や芸術家の活動、伝統文化の継承などを支援してまいります。

5 地域で育む子どもの教育

子どもたちが、地域のリーダーとして、自ら積極的に地域社会に参画できるように青少年育成会などの関係団体と連携し、スポーツや文化活動をはじめ、本町の特徴あるさまざまな体験

活用してまいります。

5 栗山高等学校を支える活動の推進

近年の子どもの減少や学校選択の多様化などの影響から生徒数の減少が続く栗山高等学校に対し、生徒の資質向上を図るため部活動対外派遣費や各種模擬試験受験料の助成、「少年ジェット希望の翼」の栗高生卒の創設など、支援策を拡充してまいります。

また、栗山高等学校の将来的な在り方や、魅力ある学校づくりなどを町民と共に話し合う「北海道栗山高등학교の魅力づくり委員会」において、学校の特色を打ち出すために、地域の教育資源や人材との連携などについて調査・検討してまいります。

第2分野

人々の学びを支える社会教育

町民が生涯にわたり、さまざまな分野の学習活動に

活動に取り組むリーダー研修事業や、くりやまキッズクラブ事業を推進するとともに、保護者を対象とした講座を開催してまいります。

また、地域住民が教育への理解を深める「ふるさと教育交流会」などを通じ、地域全体で子どもを育む環境を整えてまいります。

6 児童生徒の視野を広げる国際・地域間交流の推進

「国際感覚を持った栗っ子」を育むため、海外での生活や文化に触れる「少年ジェット希望の翼」を継続してまいります。



これまで数多くの栗っ子を派遣している少年ジェット希望の翼



スポーツ推進委員を中心に展開している歩けあるけ運動

参画し、心豊かで活力に満ちあふれたまちづくりを進めるために、人々の主体的な学習活動を支える地域の環境づくりが強く求められております。

そのため、特に重視することを6点申し上げます。

1 生涯学習の推進

子どもから高齢者まで、町民一人ひとりが生涯にわたって生きがいのある豊かな生活を送るため、趣味や教養などを高める町民講座を継続するほか、指定管理者による各種講座への支援、くりやま生涯学習塾や栗山地区女性学級、いきい

また、外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、福島県川俣町の子どもたちとの交流も併せた「英語コミュニケーションスキル研修」を継続してまいります。

さらに、姉妹都市である宮城県角田市との子ども交歓のつどいや勤労青年研修事業を継続してまいります。

2 健康づくりを目指す生涯スポーツの振興

生涯を通じてスポーツに親しみ、心身ともに健康に過ごすことができるよう、スポーツ推進委員や体育協会などの連携を強化し、町民の皆さんがいつでも気軽にスポーツに取り組みることができる機会の充実に努めてまいります。

また、スポーツ施設の計画的な整備を進めるとともに、昨年、施設の老朽化に伴い営業休止いたしました

また、スポーツ施設の計画的な整備を進めるとともに、昨年、施設の老朽化に伴い営業休止いたしました

に熱意ある町民が協働し、長年にわたる活動により栗山の豊かな自然環境が守り育てられております。

素晴らしい豊かな自然環境の下で、子どもたちが「ふるさと栗山」に愛着や誇りを持ち、心豊かにたくましく成長し、次世代に引き継いでいくことが大切であります。

そのため、特に重視することを2点申し上げます。

1 ふるさと教育の中核をなす自然体験教育の推進

10年目を迎える「ふるさと自然体験教育」につきましては、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスを拠点に、ハサンベツ地区、夕張川など身近な自然環境を活用し、各学校における各教科の学習内容に合わせた、ふるさと自然体験プログラムの充実を図ってまいります。

2 人と自然が共生するまちづくりの推進

ハサンベツ里山や御大師山、ふるさといきもの里

た栗山町スキー場の今後の在り方につきましては、町民の皆さんの意見を聞きながら早急に判断してまいります。

3 図書館を活用した事業の展開

町民の皆さんが本に触れる環境を整えるため、ニーズを把握した図書の実地に努めるとともに、図書館システムの更新を図ってまいります。

就学前児童の保護者へ絵本リストを配付するなど、家庭で読書の習慣を身につける「家読(うちどく)」をはじめ、幅広い世代に対応した読書普及活動を推進してまいります。

また、学校での読書活動を促進するため、学校図書室専門司書を継続して配置し、ミニくりプロジェクトと併せて、学校図書室の充実に努めてまいります。

さらに、図書館を活用した美術・芸術作品展を開催し、多くの町民の皆さんに利用してもらええる施設と

オオムラサキ館、ファールブルの森など、「ふるさと自然体験教育」の重要なフィールドを計画的に整備するとともに、自然関係団体への支援や各団体と連携する仕組みづくりを進め、積極的な情報発信に努めてまいります。

また、教育委員会内に「ふるさと自然体験教育」を担当する専門職員を配置して、人と自然が共生するまちづくりを推進してまいります。

さらに、まちを挙げて豊かな自然環境を守り、次世代へと継承できるように、自然環境保全再生に係る中長期計画を策定し、「人と自然が共生するまちづくり宣言」を目指してまいります。

第4分野

福祉のまちづくりを担う北海道介護福祉学校

北海道介護福祉学校につきましては、優れた介護福祉士を育成しながら、栗山町の福祉の向上のために、



積極的に体験入学を行い、学生の受け入れ体制を強化（介護福祉学校）

町内の福祉施設の人材教育、小中高の福祉教育に、重要な機能を果たしてまいりました。

しかしながら、近年の高校生世代の減少や介護職離れなどから、介護福祉士を目指す学生が減少し、学校経営に大きな影響を与えている状況にあります。

このような情勢の中、今後の学校体制も含めて抜本的な見直しを行い、介護福祉学校の将来像を明確にし、いかなければならないものと考えております。そのため、特に重視することを2点申し上げます。

1 未来の介護福祉を担う学生の確保

介護福祉学校は、30年にわたる質の高い教育力を維持しながら、職業教育水準のさらなる向上を目指すとともに、学生の確保に向けては、全教職員による学校や施設訪問、民間企業を活用した取り組みを進め、地域社会の要望に応えられる質の高い介護福祉士の養成を行い、全道はもとより全国的にも中核的な養成校づくりを進めてまいります。また、全国の養成校では、外国人留学生の受け入れが積極的に行われており、本

校も受け入れ体制の整備を引き続き進めるとともに、離職者訓練制度などによる社会人の学び直しの受け入れに向けた各種制度の周知を徹底し、入学者の増加を目指してまいります。

2 介護福祉学校の将来像

本校は、公立の介護福祉士養成校として、町内はもとより全道の地域社会に貢献する介護人材を送り出す重要な使命を果たしております。

今後は、さらなる介護福祉学校の魅力づくりに向け、国が認定する職業実践専門課程を目指すとともに、次のステージとなる学校教育法第1条校認定に向け、専門職短期大学や高等専門学校化への調査・研究に加え、福祉系大学との連携について検討してまいります。

結びに、平成31年度に向けた教育長並びに教育委員4名の決意の一端を申し上げます。



私ども5名は、これからも町民の皆さんの声にしっかりと耳を傾け、町民の教育に対する熱い想いを受け止めながら、「行動する教育委員会」の姿勢のもと、栗山の未来を担う子どもたちの成長を支援するとともに、栗山に暮らす町民の皆さんが心豊かに生涯にわたって

学ぶことができる生涯学習社会の実現のため、町民の創意に基づく栗山の教育を推進いたします。町民の皆さん、議員の皆さん、並びに関係機関・団体の皆さんのご指導とご協力を心からお願い申し上げます。平成31年度の教育行政執行方針といたします。

学校職員の異動 (敬称略)



4月1日付
北海道教育委員会発令

【転入】 () 内は前任校

- 校長
栗山小 長谷川道彦 (赤平：赤間小)
- 教頭
角田小 杉島 亜紀 (美唄：東小※教頭昇任)
継立小 三浦新一郎 (北海道教育庁学校教育局)
- 教諭
栗山小 安野 信人 (岩見沢：第二小)
佐藤 朋子 (岩見沢：東小)
小川富史江 (岩見沢：岩見沢小)
柏木麻美子 (岩見沢：岩見沢小)
磯部 俊彦 (奈井江：奈井江小)
向井 弘行 (岩見沢：中央小)
加藤 学 (岩見沢：日の出小)
角田小 片山 倫光 (岩見沢：第一小)
竹見 景子 (岩見沢：美園小)
継立小 畑山由美子 (三笠：岡山小)
鈴木 勝司 (岩見沢：美流渡小)
栗山中 角谷 良孝 (砂川：砂川中)
戸澤麻衣子 (岩見沢：緑中)
星 貴博 (美唄：南美唄中)
黒沼 祥文 (えりも：えりも中)
竹村 幸子 (岩見沢：美流渡中)
- 事務
栗山小 高柳 次夫 (岩見沢：岩見沢小)
角田小 佐藤 幸夫 (美唄：茶志内小)
継立小 横山 賢 (上砂川：上砂川中)
- 養護教諭
継立小 山本 和枝 (美唄：茶志内小)

【転出】 () 内は新任校

- 校長
栗山小 吉田 政和 (岩見沢：第一小)
- 教頭
角田小 堀 文彦 (長沼：長沼舞鶴小)
継立小 保谷 剛 (石狩：紅南小)
- 教諭
栗山小 池田 裕樹 (岩見沢：第二小)
鳴海 洋之 (岩見沢：東小)
出口 昌文 (岩見沢：栗沢小)
富岡 生子 (岩見沢：日の出小)
立野亜佑美 (退職)
角田小 鈴木 翼 (砂川：教育委員会)
継立小 渡辺 敏昭 (岩見沢：日の出小)
栗山中 引地 良夫 (砂川：砂川中)
島 早苗 (岩見沢：緑中)
工藤 泉美 (岩見沢：東光中)
今野 信彦 (夕張：ゆうぱり小※教頭昇任)
石倉 陽 (岩見沢：緑中)
- 事務
栗山小 近藤 俊彦 (退職)
角田小 織田 輝彦 (退職)
継立小 菅野 尚樹 (恵庭：和光小)
- 養護教諭
継立小 福田 尚子 (岩見沢：上幌向中)